

創刊にあたって

美術教育実践研究

和歌山大学美術教育研究会誌 No.1 [創刊号]

特集

“絵画・以降”の時代に構想する絵画教育
——その理論的前提とカリキュラムモデル

「オルタナティブ・ドローイング」と
「歴史的絵画様式のシーケンス」

■ 経緯

「和歌山大学美術教育研究会」は、地域の美術教育者と研究者との共同研究の場です。十五年ほど前に始まった会は、しばらくの中断を経て、3年前より改組再会。現在、和歌山と大阪南部を中心として、小・中・高・特支・大学などに所属する二十余名が参加しています。メンバーは、月1回の月例研究会に身近な研究課題を持ち寄り、対話を重ねてきました。

■ 実践的美術教育研究に向けて

教育現場と大学のコラボレーションでは、これらの対話の背景に、実践と理論との関係性を形成するという課題が必然的に生まれ、本誌名である『美術教育実践研究』のあり方が問われます。実践と理論との出会いを生み出し、その出会いが美術教育学の形成へと連なる道を探ることが、私たちの研究会の目的でもあります。

実践的美術教育研究に向けて、本研究会では活動の基本を題材開発とカリキュラム開発にしています。[美術+教育]に関する研究の殆どは、題材というメディア（形式）に組み込まれることで、学びの場に還元される通路を得ることになります。また、題材や授業力やカリキュラムを構想することは、一方では教師力や授業力の育成であり、他方で美術と教育の関係性や、今までの美術教育の枠組みを批評し創造的に改変していく作業にも連なることでしょう。

■ 研究プロジェクトから研究会誌発刊へ

この数年間で、私たちは、いくつかの研究プロジェクトを並行して行ってきました。そのいくつかの活動が「絵画教育の再生」という主題でまとまりつつあるのを感じ、今回の創刊となりました。

ひとつの題材を考える楽しさが、カリキュラムを構想する創造性に連なること。題材を構想することが教師の想像力を大きく発揮させ、深い部分での教師力の育成に連なること。美術と教育の出会いこそが、いつの時代も美術教育を生み出す源泉であり、美術教育を更新させる力であること。そのようなことを感じながらの発刊です。

[永守基樹（和歌山大学）]